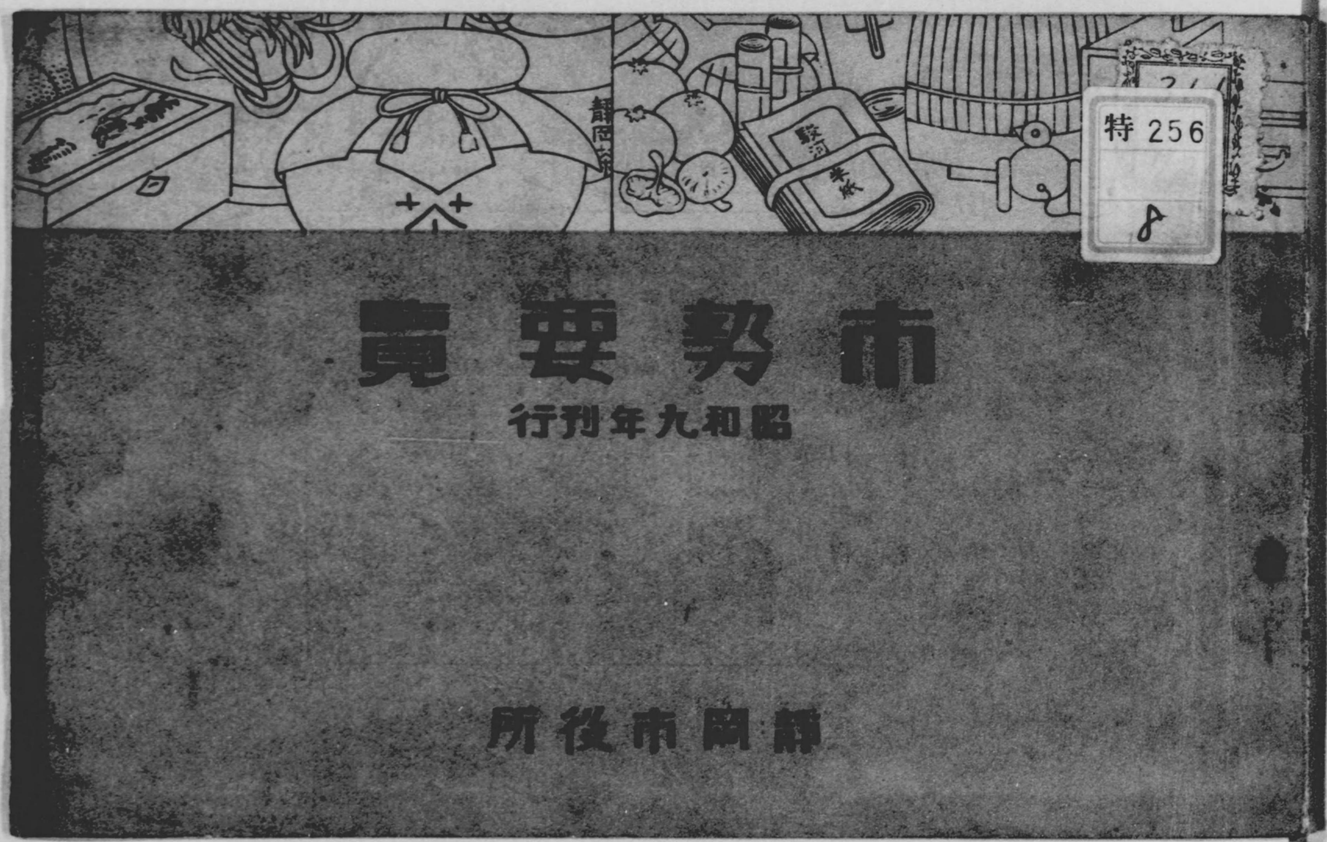


特 256
8

0032480000
0032480-000
特256－8

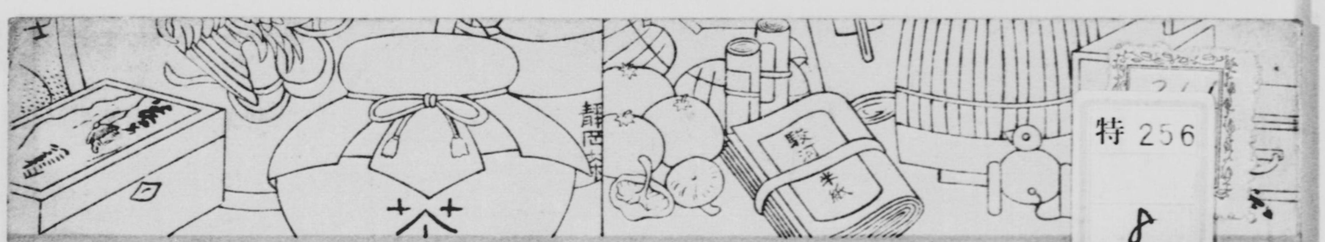
市勢要覧

静岡市

昭和９年刊行

昭和９

AFB



特 256
8

市勢要覽

昭和九年刊行

靜岡市役所

特256
8

凡例

本書ハ市勢ノ概要ヲ通覽ノ便ニ供スル目的ヲ以テ編纂セリ

本書ノ材料ハ昭和八年度市統計書中ヨリ摘錄シタルモノニシテ昭和八年中ノ事實ヲ登載セルモ經費ニ關スルモノハ昭和九年度當初豫算ヲ又教育ニ關スルモノハ昭和八年度末現在ヲ輯錄セリ

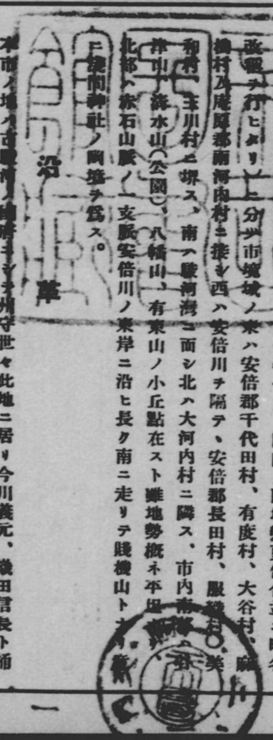
昭和九年八月

静岡市役所

總說

地勢

静岡市ハ東西兩京ノ中間ニアリテ東經百三十八度二十三分、北緯三十四度五十八分二十五秒ノ地ニアリ駿河ノ國西南部ニ位シ二百三十二ヶ町及四十二ヶ字ノ大正四年十一月、同年三月、同八月、同十四年五月、昭和三年十月、同十一月、同四年二月、同六月、同七年一月、同四月區域變更併合並ニ町名改稱ヲ行ヒタリ上分ノ市境域ノ東ハ安倍郡千代田村、有度村、大谷村、麻機村及庵原郡南藤南村ニ接シ西ハ安倍川ヲ隔テ、安倍郡長田村、服織村、美和村、玉川村ニ堺ス、南ハ駿河灣ニ面シ北ハ大河内村ニ隣ス、市内南部ハ平坦地、中部ハ藤水山（公園）、八幡山、有東山ノ小丘點在スト雖地勢概ネ平坦北部ハ赤石山脈ノ支脈安倍川ノ東岸ニ沿ヒ長ク南ニ走リテ賤機山トナル



沿革

本市ノ地ハ古駿河ノ國府ニシテ州ノ世々此地ニ居リ今川義元、織田信長ト桶狹間ニ戰ヒテ敗死シ子氏眞武田氏ノ爲メニ滅サレテ信玄之ヲ領シ勝頼亡テ德川氏ニ歸シ家康致ニ老ス慶長十四年十二月十二日德川頼宣同忠長相續キテ領シ忠長ノ竄後城代ヲ置キ又町奉行所代官所アリ明治維新ノ後更ニ德川家達ニ駿遠三州ノ内ヲ賜ヒ明治二年府中ヲ改稱シテ静岡ト謂ヘリ同四年廢藩置縣ノ令出テ静岡縣廳ヲ置カレ同五年駿河國ヲ八大區ニ分チ當時本地ハ第四大區第五小區ニ劃セラレタリ降リテ同十一年郡區編成法發布セラルヽヤ有度安倍郡所管ニ屬シ同十七年七月官選戸長ヲ置カルヽニ至リ五個ノ戸長役場ヲ置キ其後同二十二年四月始メテ自治制ヲ施行シ當時ノ地域ヲ全市ノ一區域ト定メ静

土地

有民		地目	地積
郷村社地		學校敷地	二、三坪
		市役所敷地	一、四坪

地租		地目	地積	賃貸價格	地租
地	畑		一、五四六、二四坪	三、九六六、四〇円	三、九六六、四〇円
	宅		六三一、六四〇坪	二、四五六、三〇	二、四五六、三〇
	山		六、三〇六坪	二、〇六〇、〇〇	二、〇六〇、〇〇
	林		一、四三五、三六六坪	一、四三五、三六六	一、四三五、三六六
	沼		二、四〇〇坪	二四〇、〇〇	二四〇、〇〇
	地		三、六六六、六六六坪	三、六六六、六六六	三、六六六、六六六
計			一、五四六、二四坪	三、九六六、四〇円	三、九六六、四〇円

地租		地目	地積	賃貸價格	地租
地	堤		二、六六四坪	二、六六四	二、六六四
	防		三、六六四坪	三、六六四	三、六六四
	用		一、六六六坪	一、六六六	一、六六六
	惡		六六六坪	六六六	六六六
	水		六六六坪	六六六	六六六
	路		六六六坪	六六六	六六六
	池		六六六坪	六六六	六六六
	林		六六六坪	六六六	六六六
	地		四、六四四坪	四、六四四	四、六四四
計			一、六六四坪	一、六六四	一、六六四
其他地	鐵道敷地		六六六坪	六六六	六六六
	軌道敷地		六六六坪	六六六	六六六
	他		六六六坪	六六六	六六六

氣象

氣象		最高	最低	年平均
氣温		三三度（九月四日）	四度（一月二十日）	三六度

氣象		日數	氣象	日數
天氣	晴	一三四	雪	一
	曇	一四	霧	一
	雨	一四	暴風	一
	雷	一四		
	電	一		
	霧	一		
	霜	一三		
	降水	一三四		

戸口

調査		世帶數	人口 男	人口 女	人口 計	一世帶平均人口
國勢	大正九年	二、四四四	六、六〇一	六、六〇一	一四、四〇二	五、〇
	大正十四年	二、五四四	四、六六一	四、六六一	一〇、三二二	四、一
	昭和五年	六、六六四	六、六四四	六、六四四	一三、六六八	五、〇

國勢調査		著有所地土	人員	戸數	質貸價格
		市內居住者	六、六四四	一、六六一	一、六六一、三四円
		市外居住者	一、六六一	三、二一六	五二、三三
		計	六、六六四	一、六四四	一、六六一、四四

國勢調査		公園	位置	總坪數	經費
		大濟公園	西井	六、六四四坪	一、二三四円
		賀茂水公園	宮前	一、四三一	四四、四
		鶴山公園	馬場町	九、六四四	九、四四

補業實及校學業實立市

名稱	學數	教員	生徒	卒業者	所在地
靜岡市立靜岡尋常高等小學校	三四一	八六	四八	一六五	紺屋町
靜岡市立靜岡女子尋常高等小學校	三四一	八六	四八	一六五	紺屋町
靜岡市立靜岡實業學校	三四一	八六	四八	一六五	紺屋町
靜岡市立靜岡商業學校	三四一	八六	四八	一六五	紺屋町
靜岡市立靜岡工業學校	三四一	八六	四八	一六五	紺屋町
靜岡市立靜岡農學校	三四一	八六	四八	一六五	紺屋町
靜岡市立靜岡女子尋常高等小學校	三四一	八六	四八	一六五	紺屋町
靜岡市立靜岡尋常高等小學校	三四一	八六	四八	一六五	紺屋町
靜岡市立大谷尋常高等小學校	三四一	八六	四八	一六五	紺屋町
靜岡市立西豊田尋常高等小學校	三四一	八六	四八	一六五	紺屋町
靜岡市立豊田尋常高等小學校	三四一	八六	四八	一六五	紺屋町
靜岡市立城内尋常高等小學校	三四一	八六	四八	一六五	紺屋町
靜岡市立東尋常高等小學校	三四一	八六	四八	一六五	紺屋町
靜岡市立三番町尋常高等小學校	三四一	八六	四八	一六五	紺屋町
靜岡市立城内尋常高等小學校	三四一	八六	四八	一六五	紺屋町

數

種別	教員	男	女	計
代用教員	准教員	一	一	二
計	本科正教員	一〇	一	一一
	本科教員	一〇	一	一一
	專科教員	一〇	一	一一
	准教員	一〇	一	一一
	代用教員	一〇	一	一一

學校

種別	男	女	計
尋常小學校	一〇〇	一〇〇	二〇〇
高等小學校	一〇〇	一〇〇	二〇〇

教育

館名	種別	開館日数	閲覧人員	平均一日人員
静岡縣立英文庫	図書館	四五六	一、四四〇、〇〇〇	三、〇〇〇

名称	事務所	役員	会(團)員	經費
静岡市教育会	静岡市役所内	一、三〇〇	四、〇〇〇	一、六〇〇円
静岡市聯合青年團	同	一、〇〇〇	四、〇〇〇	一、〇〇〇
静岡市聯合處女會	同	一、〇〇〇	四、〇〇〇	一、〇〇〇
静岡市少年團	同	四、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇

立國私幼	種別	校數
三	國民學校	一
一	組合學校	一
一	保育學校	一
一	婦人學校	一
一	兒童學校	一
一	保育訓練所	一

校數	學級數	教員數	兒童數	卒業者	所在地
一	三	三六	一、〇〇〇	一〇〇	大岩二丁目

校數	教育費總額	一戸當	一人當
一	三、六〇〇、〇〇〇円	三、〇〇〇円	三、六〇〇円

宗教

立官	教會名	教會所在地	教師數	信徒數
静岡縣立	日蓮宗	大岩二丁目	一	一〇〇

社寺

社寺名	所在地	氏子戸數	氏子人數	祭神
静岡縣護國神社	大岩二丁目	一、〇〇〇	五、〇〇〇	護國の英靈
静岡縣神社	同	一、〇〇〇	五、〇〇〇	大國主命

警察及刑務

警察官署	一
警察官	一
警視	
警部	
警部補	三
巡査部長	
巡査	一
巡査一人ニ對スル人口	一、〇四四
犯罪件數	
殺人	三
強盜	
放火	一
賭博其他風俗壞亂	五
刑法外諸法令違反	五
警察犯處罰令違反	一
計	一、二四一
詐欺橫領恐喝	一、四四三
風俗警察ニ關スル諸業	
貸席	一〇
料理店	七
氷水店	
飲食店	
計	八、四三二
宿屋	
旅人宿	一四
下宿	四
木賃宿	四
計	一、六四〇
貸座敷娼妓	三四
娼妓	一、六八人
娼妓ニ對スル平均人口	一、四七四
娼妓ニ對スル常設館	一
娼妓ニ對スル活動寫眞	一
計	一
娼妓ニ對スル娯樂場	一
劇場	二
寄席	一
計	一
受刑者	
懲役刑	四六
禁錮刑	
拘留刑	
前年ヨリ越人員	五四
入所者	六四
計	一、一三二
出所者	六四
年末現在所人員	四六

軍事

軍人	
陸軍	一、三三三
海軍	一、三三
現役	一〇
歸休	一〇
豫備	一〇
後備	一〇
補充	一〇
計	八、〇四九

兵

壯丁	
檢査格	
甲種	六二
乙種	
第一	一〇三
第二	一〇三
丙種	
丁種	
戊種	
計	二、六九
受檢者百人中甲種合格	二、二五五
疾病	
百人中疾病人員	花柳病
	トラホーム
	〇、九六
教育程度	
中學校以上卒業者及退學者	一六
中等學校在學者及退學者	一〇三
實業學校補習學校卒業期	一、九六
高等小學校卒業	一、三三
尋常小學校卒業	一、一
小學校ヲ卒ヘサル者	一、一
計	一、二九九

寺社

神社	
種別	國幣
	縣社
	鄉社
	村社
	無格社
神社職數	一
	二
	八
計	一、八
寺院	
天臺	一
眞言	一
淨土	一
臨濟	一
曹洞	一
時宗	一
眞宗	一
日蓮	一
黃檗	一
計	一、八
寺住職數	
天臺	一
眞言	一
淨土	一
臨濟	一
曹洞	一
時宗	一
眞宗	一
日蓮	一
黃檗	一
計	一、八
寺住職家數	
天臺	一
眞言	一
淨土	一
臨濟	一
曹洞	一
時宗	一
眞宗	一
日蓮	一
黃檗	一
計	一、八
檀住寺家職數	
天臺	一
眞言	一
淨土	一
臨濟	一
曹洞	一
時宗	一
眞宗	一
日蓮	一
黃檗	一
計	一、八
教會及講社	
基督教	
信徒	
天主公會	一
ハリストス	一
日本ハリスト會	一
聖公會	一
靜岡教會	一
メソヂスト	一
美普同仁	一
同胞	一
救世軍	一
其他	一
計	一、一一一
會堂	一
布教者	一
信徒	
靜岡基督	一
南町教會	一
メソヂスト	一
井宮教會	一
メソヂスト	一
靜岡ホーリネス	一
新生基督教會	一
計	一、一一一
會堂	一
布教者	一
神社及佛教講社	
眞言大社	一
修成會	一
曹洞	一
高野	一
扶桑	一
神習	一
丸山	一
御嶽	一
金光	一
天理	一
日蓮	一
臨濟	一
稻荷	一
法華	一
計	一、一一一

衛生

| 年 | 傳染病名 | 岡崎市立病院 法定傳染病 | 岡崎市立病院 主治医 | 院分同 内科 | 院分同 主治医 | 院分同 院長醫員 | 院分同 其他 | 静岡市立病院 一般 | 静岡市立病院 主治医 | 静岡市立病院 院長醫員 | 静岡市立病院 其他 | ワクチン 檢診人員 | ワクチン 發見患者 | 痘瘡 不善 | 痘瘡 善感 | 痘瘡 公種 | 痘瘡 私種 | 他其 藥種商 | 他其 獸醫 | 他其 產婆 | 他其 看護婦 | 他其 鍼灸治療 | 他其 醫師 | 他其 歯科醫 | 他其 藥剤師 | 他其 製藥業者 | 罹災 失火出火 | 罹災 放火 | 罹災 火災不審火 | 備設 自動車喞筒 | 備設 ポンプ喞筒 | 備設 蒸氣喞筒 | 備設 喞筒 | 備設 喞筒 | 備設

総産生

種別	産額
水産業	三〇一円
産林産	一九六円
工業	三〇三円
計	四〇二円
産物産	三〇三円
産額合計	三〇三円

社会事業・生産建設・農業

業

種別	件数	人員	金額
算業事業			
経済的保護費	三〇二	四〇二	三〇二円
社会事業			
医療的保護費			
行政救護費			
共計			
児童保護費			
教化費			
他費			
計			
総計			

種別	件数	人員	金額
第一公設質舗			
受戻	四七九	四七九	四七九円
受戻出	七七〇	七七〇	七七〇円
第一公設質舗			
受戻	八三〇	八三〇	八三〇円
受戻出	一〇二〇	一〇二〇	一〇二〇円
合計	二〇二二	二〇二二	二〇二二円

名称	所在地	戸数	建築年	一ヶ月賃料
住宅				
安井東一丁目町	三一三			三〇〇円
市営				
宮一丁目	三〇〇			三〇〇円
合計				三〇〇円

種別	男	女	計
立市岡育園			
所員	一人	一人	二人
保育延人員			
一日平均托児数	一・三	一・三	二・六
法律相談所			
民事	一		一
商事			
刑事			
計	一		一
市役所			
入場人員	六		六
一ヶ年賣上高	九〇〇円		九〇〇円

種別	人員	賣上高	営業日数
食料品販売			
入場人員	二〇人		
賣上高	一〇〇円		三〇日
所得税納税者			
納税者	五人		
免税者		五人	
計		五人	

種別	人員	金額
介紹業職		
昭和七年		
求人数	八六人	四五六人
求職者数	九〇人	四五〇人
紹介件数	九〇〇人	四五〇〇人
就職者数	四〇人	四〇人

事

種別	件数	人員	金額
産助			
助産			
産婦			
回復産婦			
診療保護ノ指導者	三〇	三〇	
巡産婦			
産婦			
産婦人員			
産婦延人員			
産婦人員	一八二	一八二	
産婦延人員	二〇〇	二〇〇	
産婦人員			
産婦延人員			
産婦人員	三〇三	三〇三

畜産

畜家	家畜馬牛	馬	明治	戸数
	兎	兎	同	同
	養蚕業	蚕種	同	同

養蜂

蜜蜂	飼養戸数	箱	数	戸
		蜜蜂	数	貫
			価格	円

養蚕

桑畑反別	桑畑反別	桑畑	数	畝
			収穫	貫
			価格	円

産業

水産養殖場面積	製造物	品名	数量	価額
二	蒲鉾		三五〇〇〇貫	三〇〇〇円
四〇〇坪	竹輪		二三三貫	一〇〇
	乾燥魚		一三〇〇貫	一〇〇
	乾燥魚		一〇〇貫	一〇
	煮魚		一〇〇貫	一〇
	肥料		三〇〇〇貫	三〇〇
	合計		一〇〇〇貫	一〇〇

工業

種別	戸数	職工数	生産額
飲食料品工業	一	九	一〇〇円
紡織工業	一	一四	一〇〇
機械器具工業	一	一六	一〇〇
化學及瓦斯工業	一	一三	一〇〇
製材及木製品工業	一	一〇	一〇〇
其他ノ工業	一	一四	一〇〇
計	一〇	六四	一〇〇

工場名	製造戸数	職工数	生産額
綿織物及絹織物	二	四	二〇〇円
絹織物及綿交織物	一	五	二〇〇
和染	一	六	二〇〇
再製茶	一	七	二〇〇
製茶（内輸出）	一	二	二〇〇
種子及園	一	六	二〇〇
各種農機具	一	一〇	二〇〇
又類	一	一〇	二〇〇
扇子類	一	一〇	二〇〇
紙傘類	一	一〇	二〇〇
煉瓦類	一	一〇	二〇〇
廣瀬物	一	一〇	二〇〇
菓子類	一	一〇	二〇〇
麺類	一	一〇	二〇〇
醋	一	一〇	二〇〇
酒	一	一〇	二〇〇
醤油	一	一〇	二〇〇
味噌	一	一〇	二〇〇
味淋	一	一〇	二〇〇
清涼飲料	一	一〇	二〇〇
製氷	一	一〇	二〇〇
帽子	一	一〇	二〇〇

水産業

種別	漁獲物	数量	価額
本業	鯛	二二	二〇〇円
副業	鯛	一二	一〇〇
本業	鰯	一二	一〇〇
副業	鰯	一二	一〇〇
本業	鮫	一二	一〇〇
副業	鮫	一二	一〇〇
本業	鰹	一二	一〇〇
副業	鰹	一二	一〇〇
本業	鮪	一二	一〇〇
副業	鮪	一二	一〇〇
本業	鰤	一二	一〇〇
副業	鰤	一二	一〇〇
本業	鱈	一二	一〇〇
副業	鱈	一二	一〇〇
本業	鰈	一二	一〇〇
副業	鰈	一二	一〇〇
本業	鯉	一二	一〇〇
副業	鯉	一二	一〇〇
本業	鮒	一二	一〇〇
副業	鮒	一二	一〇〇
本業	鰻	一二	一〇〇
副業	鰻	一二	一〇〇
本業	鯰	一二	一〇〇
副業	鯰	一二	一〇〇
本業	鯨	一二	一〇〇
副業	鯨	一二	一〇〇
本業	海鼠	一二	一〇〇
副業	海鼠	一二	一〇〇
本業	海苔	一二	一〇〇
副業	海苔	一二	一〇〇
本業	海藻	一二	一〇〇
副業	海藻	一二	一〇〇
本業	海草	一二	一〇〇
副業	海草	一二	一〇〇
本業	海鼠	一二	一〇〇
副業	海鼠	一二	一〇〇
本業	海苔	一二	一〇〇
副業	海苔	一二	一〇〇
本業	海藻	一二	一〇〇
副業	海藻	一二	一〇〇
本業	海草	一二	一〇〇
副業	海草	一二	一〇〇
本業	海鼠	一二	一〇〇
副業	海鼠	一二	一〇〇
本業	海苔	一二	一〇〇
副業	海苔	一二	一〇〇
本業	海藻	一二	一〇〇
副業	海草	一二	一〇〇
本業	海鼠

商

社寺別	商業	運輸業	計
戸数	三	一	四

農業	水産業	鑛業	工業	計
戸数	一	一	一	三
資本金	三、〇〇〇円	三、〇〇〇円	三、〇〇〇円	九、〇〇〇円
拂込額	三、〇〇〇円	三、〇〇〇円	三、〇〇〇円	九、〇〇〇円
積立金	〇円	〇円	〇円	〇円

種別	合名會社	合資會社	株式會社	計
組合數	一	一	一	三
資本金	三、〇〇〇円	三、〇〇〇円	三、〇〇〇円	九、〇〇〇円
拂込額	三、〇〇〇円	三、〇〇〇円	三、〇〇〇円	九、〇〇〇円
積立金	〇円	〇円	〇円	〇円

種別	産業組合	産業組合	漁業組合	鑛業組合	其他組合	計
組合數	一	一	一	一	一	五
資本金	三、〇〇〇円	三、〇〇〇円	三、〇〇〇円	三、〇〇〇円	三、〇〇〇円	一五、〇〇〇円
拂込額	三、〇〇〇円	三、〇〇〇円	三、〇〇〇円	三、〇〇〇円	三、〇〇〇円	一五、〇〇〇円
積立金	〇円	〇円	〇円	〇円	〇円	〇円

商業會議所	會員定數	會員現在數	役員	同	同	同	計
	一	一	一	一	一	一	六

商工業者	商	工	計
戸數	一	一	二
人員	三	一	四
資本金	二、〇〇〇円	五〇〇円	二、五〇〇円

商業者	商	工	計
人員	一	一	二

金

種別	貯蓄銀行	普通銀行	貯蓄銀行	普通銀行	計
預金者數	一、〇〇〇人	一、〇〇〇人	一、〇〇〇人	一、〇〇〇人	四、〇〇〇人
預金額	三、〇〇〇、〇〇〇円	三、〇〇〇、〇〇〇円	三、〇〇〇、〇〇〇円	三、〇〇〇、〇〇〇円	一二、〇〇〇、〇〇〇円
貸出額	二、〇〇〇、〇〇〇円	二、〇〇〇、〇〇〇円	二、〇〇〇、〇〇〇円	二、〇〇〇、〇〇〇円	八、〇〇〇、〇〇〇円
受入高	一、〇〇〇、〇〇〇円	一、〇〇〇、〇〇〇円	一、〇〇〇、〇〇〇円	一、〇〇〇、〇〇〇円	四、〇〇〇、〇〇〇円
流入高	〇円	〇円	〇円	〇円	〇円
年末現在	三、〇〇〇、〇〇〇円	三、〇〇〇、〇〇〇円	三、〇〇〇、〇〇〇円	三、〇〇〇、〇〇〇円	一二、〇〇〇、〇〇〇円

種別	郵便貯金	郵便貯金	計
預金者數	四〇人	三〇人	七〇人
預金額	四〇円	三〇円	七〇円

工業

種別	織物	染物	陶器	金物	木竹細工	其他	計
戸數	一	一	一	一	一	一	六
職工數	一〇人	一〇人	一〇人	一〇人	一〇人	一〇人	六〇人
資本金	一、〇〇〇円	一、〇〇〇円	一、〇〇〇円	一、〇〇〇円	一、〇〇〇円	一、〇〇〇円	六、〇〇〇円
拂込額	一、〇〇〇円	一、〇〇〇円	一、〇〇〇円	一、〇〇〇円	一、〇〇〇円	一、〇〇〇円	六、〇〇〇円
積立金	〇円	〇円	〇円	〇円	〇円	〇円	〇円

物

種別	醸造業	醸造業	計
戸數	一	一	二
職工數	一〇人	一〇人	二〇人
資本金	一、〇〇〇円	一、〇〇〇円	二、〇〇〇円
拂込額	一、〇〇〇円	一、〇〇〇円	二、〇〇〇円
積立金	〇円	〇円	〇円

商業

種別	甲種商業	乙種商業	計
戸數	一	一	二
職員數	一〇人	一〇人	二〇人
資本金	一、〇〇〇円	一、〇〇〇円	二、〇〇〇円
拂込額	一、〇〇〇円	一、〇〇〇円	二、〇〇〇円
積立金	〇円	〇円	〇円

運輸業

種別	人力車業	計
戸數	一	一
職員數	一〇人	一〇人
資本金	一、〇〇〇円	一、〇〇〇円
拂込額	一、〇〇〇円	一、〇〇〇円
積立金	〇円	〇円

雇人

種別	甲種	乙種	計
戸數	一〇〇〇戸	一〇〇〇戸	二〇〇〇戸
人員	一〇〇〇人	一〇〇〇人	二〇〇〇人

戸數

種別	甲種	乙種	計
戸數	一〇〇〇戸	一〇〇〇戸	二〇〇〇戸
不正戸數	〇戸	〇戸	〇戸

度量衡

種別	甲種器物ノ數	乙種器物ノ數	計
器物ノ數	一〇〇〇	一〇〇〇	二〇〇〇
不正器物ノ數	〇	〇	〇
不正器物百中ノ割合	〇	〇	〇

市場

種別	甲種	乙種	計
市場數	一〇〇〇	一〇〇〇	二〇〇〇

物價

（賣買）價格平均

品名	單位	價額
米	一石	三〇円〇〇
清酒	一石	三〇円〇〇
醤油	一石	三〇円〇〇
味噌	一石	三〇円〇〇
鰹節	一貫匁	三〇円〇〇
白砂糖	一貫匁	三〇円〇〇
黒砂糖	一貫匁	三〇円〇〇
木綿	一反	三〇円〇〇
麻	一反	三〇円〇〇
絹	一反	三〇円〇〇
新聞紙	一枚	三〇円〇〇
石炭	一貫匁	三〇円〇〇
石油	一貫匁	三〇円〇〇
牛鍋	一人前	三〇円〇〇
牛乳	一合	三〇円〇〇
鶏卵	一個	三〇円〇〇
肉	一貫匁	三〇円〇〇
鰹節	一貫匁	三〇円〇〇
人夫賃	一日	三〇円〇〇
大工賃	一日	三〇円〇〇
左官賃	一日	三〇円〇〇
人力車賃	一里	三〇円〇〇
馬車賃	一里	三〇円〇〇
電信料	一通	三〇円〇〇
郵便料	一通	三〇円〇〇
電話料	一通	三〇円〇〇

商業

種別	來觀人數	一日平均
人員	三〇人	三〇人
金額	三〇円	三〇円

種別	來觀人數	一日平均
人員	三〇人	三〇人
金額	三〇円	三〇円

品名	數量	價額
米	三〇石	三〇円〇〇
清酒	三〇石	三〇円〇〇
醤油	三〇石	三〇円〇〇
味噌	三〇石	三〇円〇〇
鰹節	三〇貫匁	三〇円〇〇
白砂糖	三〇貫匁	三〇円〇〇
黒砂糖	三〇貫匁	三〇円〇〇
木綿	三〇反	三〇円〇〇
麻	三〇反	三〇円〇〇
絹	三〇反	三〇円〇〇
新聞紙	三〇枚	三〇円〇〇
石炭	三〇貫匁	三〇円〇〇
石油	三〇貫匁	三〇円〇〇
牛鍋	三〇人前	三〇円〇〇
牛乳	三〇合	三〇円〇〇
鶏卵	三〇個	三〇円〇〇
肉	三〇貫匁	三〇円〇〇
鰹節	三〇貫匁	三〇円〇〇
人夫賃	三〇人	三〇円〇〇
大工賃	三〇人	三〇円〇〇
左官賃	三〇人	三〇円〇〇
人力車賃	三〇里	三〇円〇〇
馬車賃	三〇里	三〇円〇〇
電信料	三〇通	三〇円〇〇
郵便料	三〇通	三〇円〇〇
電話料	三〇通	三〇円〇〇

郵便・電信・電話・道路・橋梁・河川・港湾・市場・屠場・墓地

郵便

郵便局所	一等局	二等局	三等局	簡易郵便局	郵便局	郵便局	計
郵便物	引受			配達			
郵便物	別納						
通常郵便	郵便物						
小包郵便	郵便物						
電報通數	發信			着信			計
	公衆電話						

電信

電話通信度數	市外	時間	加入者ニ	公衆電話ニ	計
		數			
	市内	時間	加入者相互間	公衆電話ニ	計
		數			

道路

道路	國道	縣道	市道	計			
橋梁	安治橋梁	特別市橋梁	計				
河川	堤防	護岸	水制	計			
港湾	名称	乗客	乗客賃金	貨物	貨物賃金	計	
市場	市場	公設	民設	計			
屠場	屠場	公設	民設	計			
墓地	墓地	公設	民設	計			

鉄道

鉄道	國有鉄道	私設鉄道	計				
軌道	軌道	自動車	馬車	人力車	牛車	計	
軌道	軌道	自動車	馬車	人力車	牛車	計	

市會・郡會・町村會・市參事會・市長・助役・市吏員・市會議員・郡會議員・町村會議員

市會

市會	市參事會	定員	現員	議員	議員	現員
議員	議員	議員	議員	議員	議員	議

財政

一（昭和九年度）

一 計會經出歳

部	時	臨	出	歳	科目	豫算額
電話	市電話線補充費					三、六六〇、〇〇〇円
話	域	許	生	物同染		
架設調査費					病	四〇〇、〇〇〇円
設	主	水	醫	除	防	三、六六〇、〇〇〇円

一 會經出歳

部	常	科目	豫算額
公設市場	商業振興	工業奬勵費	三、六六〇、〇〇〇円
國民職業紹介所	市場管理費	職業紹介費	三、六六〇、〇〇〇円
業水道	場除	館	三、六六〇、〇〇〇円
經	常	職業紹介費	三、六六〇、〇〇〇円
		給料	三、六六〇、〇〇〇円
		諸費	三、六六〇、〇〇〇円
		諸費	三、六六〇、〇〇〇円
補助費		公共團體補助費	三、六六〇、〇〇〇円
計			三、六六〇、〇〇〇円

一 入歳

部	科目	豫算額
寄附金	國庫補助金	三、六六〇、〇〇〇円
補	車馬料	三、六六〇、〇〇〇円
附	補下付金	三、六六〇、〇〇〇円
助	手數料	三、六六〇、〇〇〇円
金	金	三、六六〇、〇〇〇円
入	市稅	三、六六〇、〇〇〇円
歳	市稅	三、六六〇、〇〇〇円
入	收越繰入	三、六六〇、〇〇〇円
合	計	三、六六〇、〇〇〇円

電氣

一 電燈

部	科目	豫算額
電燈	戸數	三、六六〇
點火	燈數	三、六六〇
付	燈數	三、六六〇
取付	戸數	三、六六〇
	燈數	三、六六〇
電力	戸數	
取付	燈數	三、六六〇
	電力數	三、六六〇キロワット
電熱	取付	三、六六〇
	用	三、六六〇
電氣他	取付	三、六六〇
	用	三、六六〇
動力用	電灯用	三、六六〇キロワット
電熱用	家需	三、六六〇キロワット
動力用	家需	三、六六〇キロワット
電灯

公署・新興社・實業圖會

官公署

官署名	位置	電話
静岡市役所	静岡市追手町	二七〇〇
静岡市立病院	静岡市追手町	二〇三二
静岡市立商業學校	静岡市追手町	二〇三六
静岡市立工業試驗場	静岡市追手町	二〇三九
静岡市立農事試驗場	静岡市追手町	二〇三三
静岡市立静岡病院附屬看護婦養成所	静岡市追手町	二〇三一
静岡市公設市場	静岡市追手町	二〇三〇
静岡市職業紹介所	静岡市追手町	二〇三二
静岡縣警察部	静岡市追手町	二〇二〇
静岡縣土木出張所	静岡市追手町	二〇二一
静岡縣立農事試驗場	静岡市追手町	二〇二二
静岡縣立蓮華寺病院	静岡市追手町	二〇二四
静岡縣立蓮華寺病院	静岡市追手町	二〇二五
静岡縣立蓮華寺病院	静岡市追手町	二〇二六
静岡縣立蓮華寺病院	静岡市追手町	二〇二七
静岡縣立蓮華寺病院	静岡市追手町	二〇二八
静岡縣立蓮華寺病院	静岡市追手町	二〇二九
静岡縣立蓮華寺病院	静岡市追手町	二〇二〇
静岡縣立蓮華寺病院	静岡市追手町	二〇二一
静岡縣立蓮華寺病院	静岡市追手町	二〇二二
静岡縣立蓮華寺病院	静岡市追手町	二〇二三

證

合	組	則	新	聞	社	共	仙	組	業	漁	合
靜	靜	靜	靜	名	東	東	靜	靜	靜	靜	靜
靜	靜	靜	靜	東	東	靜	靜	靜	靜	靜	靜
岡	岡	岡	岡	歌	京	靜	靜	靜	靜	靜	靜
岡	岡	岡	岡	京	古	靜	靜	靜	靜	靜	靜
岡	岡	岡	岡	東	京	靜	靜	靜	靜	靜	靜
岡	岡	岡	岡	知	京	靜	靜	靜	靜	靜	靜
岡	岡	岡	岡	事	民	靜	靜	靜	靜	靜	靜
岡	岡	岡	岡	電	日	靜	靜	靜	靜	靜	靜
岡	岡	岡	岡	知	知	靜	靜	靜	靜	靜	靜
岡	岡	岡	岡	事	事

元靜岡御用邸 追手町に在りて明治三十三年の御造營に係る。敷地約〇・〇二三平方粁（七千坪　建坪〇・〇〇二平方粁（六百餘坪）和風二階建にして、其の結構瀟洒たりと雖も自ら莊嚴を極む。明治三十五年十一月十八日明治天皇初めて御駐蹕あらせられしより鳳輦鶴駕を駐めさせ給ふこと四十餘回、殊に昭和五年　今上陛下靜岡縣下御巡幸の御途次五月二十八、九兩日玆に御駐蹕あらせ給ふ。而して此の御用邸は御造營以來宮內省の主管なりしも昭和五年十二月十九日限り之を廢止せられ同七年十一月三日本市に御移管あらせらる。

其の一角の地を卜して市廳舍及公會堂用地とす。

駿府城址 市の中央に在りて停車場を距ること僅に八百七十三米（八町）。其の地域東西六百五十五米（六町）南北七百二十七米（六町四十間）にして稍方形をなし面積〇・五一六平方粁（一五六、〇〇〇坪）あり吉野朝の頃中賀野掃部助此處に防備を整へ、久能寺城と連絡して足利尊氏の東下を遮らんとして成らず。後今川範政駿府に居を定むるに當り此の城を居館として修築し、又天正十四年德川家康公擴松より遷り松平家忠をしてこれを擴築せしむ。慶長十二年家康公駿府を蒐裝の地となし、本城修築を命し畿內、越前、尾張、三河、丹波、備中、近江、伊勢、美濃等に課役二月工を起し七月竣工す。十二月新城火災ありしが翌十三年正月再修を命じ三月に至りて成る。城は所謂平城の制にして南を追手とし、外郭に追手、四足、草深、橫內の四門を設け、以內を二の丸、本丸とし本丸の西北隅に七重の天守閣を起す。元和二年四月、家康公の薨後德川秀忠長相尋いで城主たりしが寛永九年忠長甲府に移されてよりは城代を置きて守らしむ。同十二年十一月茶町二丁目より出火にて二門を除くの外悉く烏有に歸せしを以て同十五年更に造營すと雖も天守閣は再建するに至らず。

明治二十九年、本丸、二の丸を毀ちて步兵第三十四聯隊の營舍を置き又外郭には縣廳其他の官公署學校等を設けたるを以て今や昔時の壯觀なしと雖も尙石垣濠壘の舊態を存して其の面影を留む。

淺間神社 賤機山の南麓に在りて停車場を距ること一千六百三十六米（十五町）。樓門は東、南の二方に在り、東樓門を入れば神部神社及淺間神社、南樓門を入れば大歲御祖神社あり。三社共に國幣小社なり。神部神社は式內に列し、之を駿河國惣社に宛て、祭神を大己貴命とし、崇神天皇の御代に奉祀せりといふ。淺間神社は富士郡大宮町の淺間神社の新宮として總社と並べ祭りしものにして、木花咲耶姫命を祭神とし其の年曆は社傳によれば延喜元年とす。大歲御祖神社は安倍市の守護神を地主神たる奈吾屋神社にいはひ祭り應神天皇の御代に奉祀せりといふ。神部、淺間兩社の前には三層高閣の大拜殿あり、舞殿あり、長廊之を繞りて其の前面に樓門を開く。次に隨身門、華表あり。結構壯麗輪奐の美を極む。又百段坂の上には愛宕社麓山神社（山宮ともいふ）あり。

今川範國駿河の守護となるや大に之を崇敬し奉り、其政治に由事あらば勿ちに卜し給へかしと賢書を納め、其の子範氏亦天下太平の新禱を行ひ規模を宏壯にして大に神威を發かにし、神職、供僧及び國方と稱する奉仕者をも加へ奉幣の式流鏑馬の如き神事を行ひ、久能寺、建穩寺等附近の大寺をも祭事に加へしめ以て上下の信仰をこゝにあつめて施政に當れり。されば武田信玄、德川家康も皆祭事造營に心を致し、德川時代には御朱印二千六百餘石神職、供僧十數家ありて之に奉仕せり。而して社殿は寛永十一年家光公より黃金十六萬兩の下賜ありて改造し、大に善美を盡せしが、安永二年及び天明八年の火災に燒失し、今の殿宇は文化元年起工、慶應元年に竣工したるものにして、其の間六十二年、財を費すこと金八萬餘兩に及び、境內は潤く二萬餘坪ありて、古松老杉枝を交へ、梅櫻各其研を爭ひ四季の風光絡めて佳なり。

淺間神社の大祭は毎年三月三日なれども、外に古來の祭典として二十日會祭あり。この舞樂は今川氏の頃より建穩寺の稚兒舞を招き演奏せしめて神に手向けしものにて毎年二月二十日を以て擧行せしが明治維新後中絕し明治二十七年に至りて之を復興し四月五日となすに至れり。

寶物は正親町天皇御宸筆龍虎大文字掛物、後水尾天皇御宸筆色紙、青蓮法親王御筆、狩野探幽齋守信畫に成れる三十六歌仙、家光公染筆の幅、左甚五郎作狛犬、武田、今川、豐臣、德川諸家の古文書及由緒ある武具什器書畫等多く就中天正年間豐太閤より家康公へ讓與の初代長光銘卷の太刀は明治四十四年國寶に指定せられ今東京九段なる遊就館に陳列せらる。又家康十三歲の鎧着初に用ひたりと云ふ緋威の腹卷は今川義元の調へ與へたるものにして傳來實物共に合致したる貴重なるものなり。其他大拜殿格天井の狩野伊川、融川筆の龍及び天女圖、本殿背後の鵲、樓門の龍、神馬等の彫像物は亦有名なるものなり。

淺間神社の大修繕　現今の社殿は前記の如く文化以來の造營なるが既に大破に及べるを以て、政府に於ても之が復舊を企て昭和四年以來國費を以て大修繕を加ふることゝなり工事を開始し、神部、淺間神社の本殿透塀、大鳥居及び大拜殿の修繕にも着手せ月竣成し、今や大歲御祖神社の本殿透塀は昭和六年四

り。又此と同時に靜岡市民の寄附に係る奉賛會事業として大廻廊を始め國費修繕以外の舞末社總門等の大修繕並に神域整備等を遂行することゝなりぬ。されば完成の上は金碧燦爛として盛觀を極むべし。

賤機山公園 賤機山は一に青葉々岡と稱す。百段坂を登りて麓山神社に詣づれば少許にして公園に達すべし。大正三年四月開園する所にして〇・〇〇九平方粁（二千七百餘坪）あり。全市の萬象脚下に迫り富岳は遠く東北に聳えて遥遥たる龍爪山脈其の前に起伏し、南は一碧萬項の駿河灣を捲して伊豆の連峰沓靄の間に現じ、西は德願、天柱等の群峰蜿蜒として際まる所なく安倍の長流は葉絹を展ぶるが如く其の麓を繞りて南駿河灣に流る。駿豫際涯なく其の風光の美言はん方なし。

賓臺院 停車場より西五百四十二米（約五町）下魚町に在り。淨土宗にして金米山龍泉寺と號し正永三年觀譽上人の開基なり。天正十七年五月秀忠公の母堂西郷局を葬り龍泉寺殿と號す。大時は紺屋町に在り。寛永三年今の地に所替を仰せ付けられ、九千餘坪を賜はりて同年起工同五年竣工す。同年五月九日 後水尾天皇勅して龍泉寺殿へ從一位を贈せられ、改めて賓臺院殿一品大夫人の號を賜はり寺號を賓臺院と改む。同年七月十九日住持に常紫衣を許さる。本堂には彌陀三尊を安置し靈廟鐘楼等頗る壯麗を極めたり境内には家康公の臣榊原清政、内藤仁兵衛忠政及び奇人かしく坊の墓あり尙當院は德川時代三百石の御朱印を賜はり、駿河國の淨土宗の觸頭にして明治元年（慶應四年）七月二十三日德川慶喜公鼓に謹慎し翌二年十月五日まで閉居す。寶物は賓臺院宣命、賜紫衣綸旨を始めとして數多の古文書、家康公眞筆の畫像及び公が父より譲られし眞の太刀其他所藏する處のもの多く殊に家康公守本尊たりし白本尊は有名なるものなり。

大濱公園 市の南端西島海岸松林中に在り。停車場より四粁（一里）昭和五年九月開園するところにして面積は〇・〇二三平方粁（七千坪）に過ぎざるも左右防風林一・九六四粁（十八町）に及び前面は清砂なる海岸濱地にして、利用せらゝ面積約〇・一九八平方粁（約六萬坪）を有せり。公園附屬設備として海水を取入れたるプール四ヶ所の設けあり。本市唯一の臨海公園にして夏期は最も納涼に適す。

清水山公園 音羽町に在りて音羽町電車停留場より僅かに一〇九米（一町）。明治四十二年八月開園し面積〇・〇二二平方粁（六千六百五十五坪）あり。園内に本邦茶業界の功勞者大谷嘉兵衛翁の銅像あり。丘上に至れば四望開豁にして、市街を眺眸に集め、遠く伊豆半島を萬波縹渺の裡に望むべく眺望頗る佳なり。

清水寺 清水山公園の傍にあり。當寺は永祿二年朝比奈丹波守元長が國主今川義元の命により京都東山の音羽山清水寺に擬へて建立すといふ。開山を道因法師とす。高野山派に屬する眞言宗の一名刹にして、家康公の念持佛たりし慈心僧都作の千手觀音を本尊とす。山號を音羽山といふ。堂宇は初め山頂に在りしが後に今の處に移さる。境内に觀音、金毘羅、藥師、地藏等の諸堂あり。藥師堂には國分寺にありし丈六鑄鐵藥師を安置す。堂宇は數度の火災震災によりて潰滅に歸し、其都度建立せるも概れ假精舍にして昔時の觀なし。大正八年十二月新に建立せる鐘楼の鐘は昔時の駿府時鐘を改鑄したるものにして、題偈は慶喜公、家達公の揮毫する所なり。境内に芭蕉翁、月巢、時雨窓等の句碑あり。

駿河路やは那たちはなも茶のにほ飛　芭蕉翁
明月やこゝ呂ひとつの置所　雪屋人月集
寂時分乃ないものなくは皇の月　菅雅
雪乃旅枕一本乃いのちか那　四世時雨窓詩三

當寺に國分寺所傳の今川、武田兩家の古文書其の他什物を藏す。就中九條道孝公寄進の藥師如來畫像は有名なるものなり。

臨濟寺 大岩に在りて停車場より二・八三六粁（約二十六町）【淺間神社より北方約一粁（十町）】臨濟宗の巨刹にして大龍山と號し阿彌陀を本尊とす。此寺は初め今川氏親が三男承芳の爲めに亡母伊勢氏北川殿の所在地大岩に善德院を建てしが、天文五年氏親の前子氏輝卒せし時當寺に葬り臨濟寺殿用山玄公と謚すに至つて寺名を今の如くに改む。承芳乃ち復飾して家を繼ぎ義元と名乘り大原雪齋住寺となり、其の師本光國師大休を請して開山とす。大休は後奈良天皇學の師範にして其の緣によりて當寺を一國一寺の勅願所とせられ今も勅東海最初禪林と號す。其後兩度兵燹にて伽藍喪上せしかば、天正十年八月家康公、正親町天皇の勅を奉じて再建せり。當て公の幼時今川氏に質たるや雪齋につきて技に史書、兵學を學ぶといふ。寺域廣くして山を負ひ、堂塔鐘楼相並びて翠巒綠稍の中に現はれ泉石の配置赤丹綉を凝らして觀賞に富む。寺寶には後奈良天皇の勅願及御宸翰、正親町天皇の御宸翰、今川、武田、德川諸家の古文書、雪舟、探幽等の畫幅到を始めとして珍什頗る多し。

境内門の左傍に今川義元の墓あり。

大應國師產湯井 井宮にあり。大應國師は諱を紹明と言ひ寡碩元年井宮に生れ此の井水を產湯に用ひたりと傳へらる。幼にして建穩寺の淨辨に仕へ、十五歲の時羣雄して鎌倉の建長寺に學び、後宋に渡りて臨濟の高僧虛堂を師とし歸朝の後崇福（筑前）萬壽（京都）建長（鎌倉）等の諸寺を主り後字多法皇、北條貞時等より厚く歸依せられ、延慶元年七十四歲にて遷化す。

其の圓通大應國師の諡號は後宇多上皇より賜はれるものなり。國師の木像はもと井宮圓通庵に在りしも、現在寺町三丁目少林寺に藏せらる。

由比正雪の墓　由比正雪丸橋忠彌と謀り德川幕府を覆さんとせしも事成らず。慶安四年七月二十六日當地梅屋町の旅宿梅屋勘兵衛方にて捕縛に先ち自盡す。年四十二、其の首級は安倍碩に梟せられしを誰人か竊み來りて寺町四丁目菩提樹院の井戸の傍に埋めしといふ。而して何れの時か五輪（地輪は夙に失せ後他の似つかはしき物を以て補ふ）の墓を立てゝ後世を弔ふに至れり。

安倍川橋　安倍川の架橋にしてもと安水橋と稱す。此の渡頭は承和の頃には渡船三艘ありたるも德川時代に至り舟橋を禁じ大井川と等しく肇臺にて渡川せしむることゝなし以て明治の世に至れり。宮崎總五氏其の不便を慨き私資を投じ架橋せしを後縣費となす。更に大正十一年三月鐵橋架設工事に著手し、同十二年七月開通式を擧ぐるに至れり。長さ四百九十一米（二百七十間）經費約金六十萬圓。橋上の眺望絶佳にして夏時は最も納涼に適す。

安倍川義夫の碑　市の西部彌勒安倍川橋畔に在り。停車場より二〇八三六粁（約二十六丁）義夫の事蹟は尋常小學國語讀本卷の七に載する處にして、原文は名僧白隱禪師の筆に成り具に其の顚末を叙す。此の佳話を遺せるの地未だ嘗て之が旌表の企なきを慨し、昭和四年四月本縣の慫慂により靜岡縣、靜岡市、安倍郡の三教育會之が主催となりて碑を建て安倍川義夫碑と題し、尙ほ原文中の一句を剔して之を後昆に傳ふ。

其の文に言ふ、

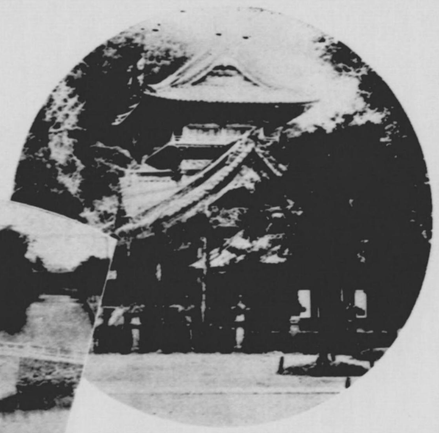
不レ臨レ難　不レ知二忠臣之志一
不レ臨レ財　不レ知二義士之心一

昭和九年八月二十日印刷
昭和九年八月二十五日發行

靜岡市役所

印刷所　靜岡市馬淵町二丁目六〇　深尾活版所　電話一、七九五番

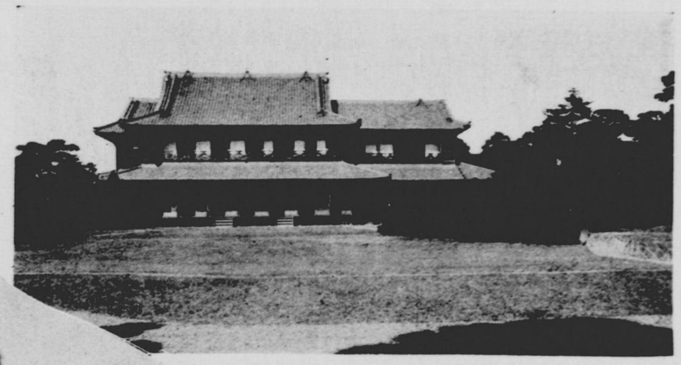
靜岡市街ト茶園ノ一部



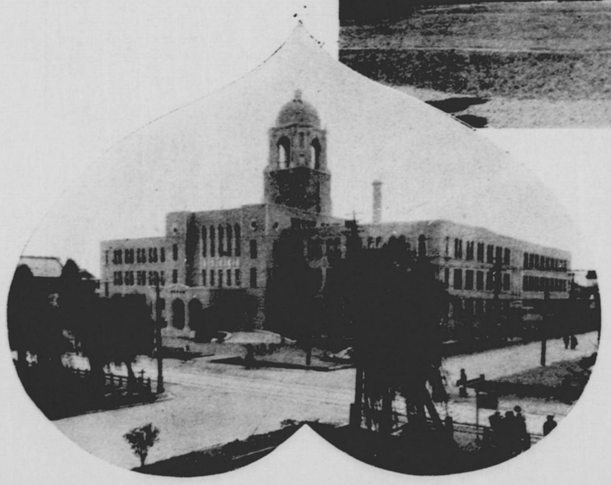
淺間神社

駿府城趾

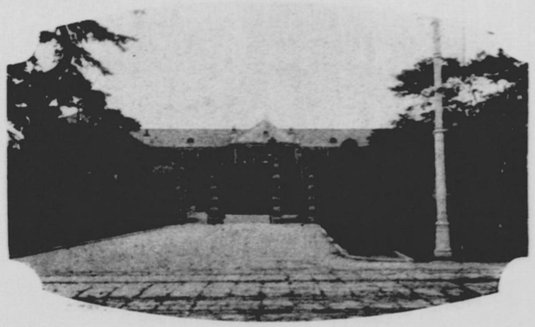
臨濟寺



元靜岡御用邸



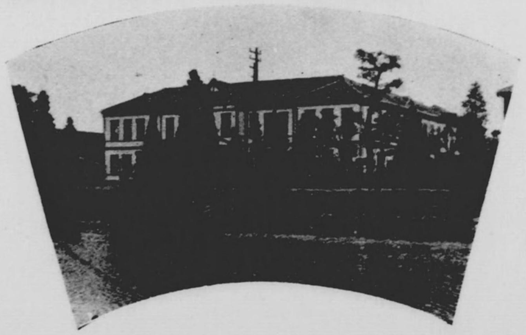
靜岡市役所



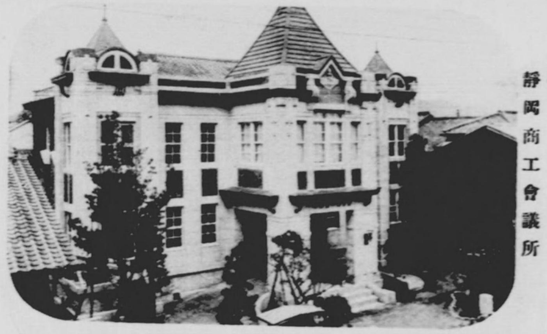
靜岡縣廳

静岡高等學校

静岡中學校

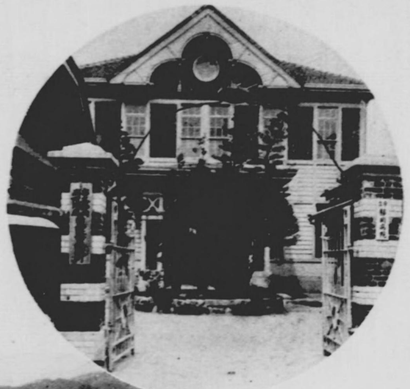


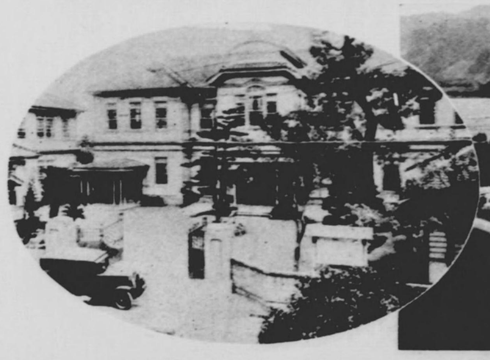
静岡師範學校



静岡商工會議所

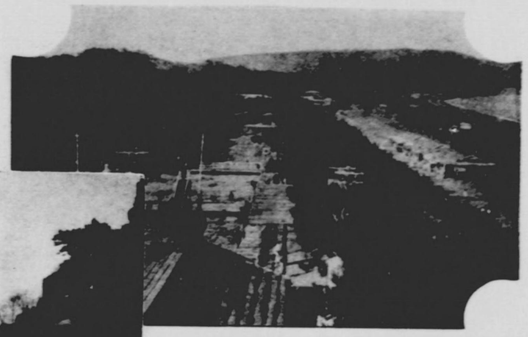
市立静岡病院





静岡市商工奬勵館

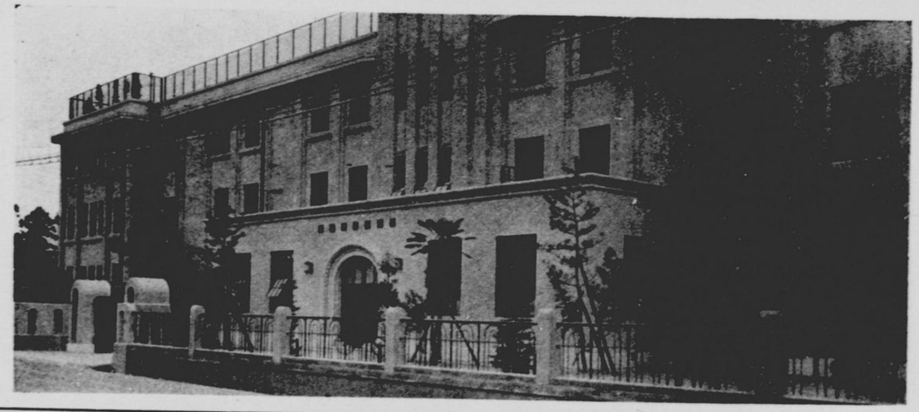
水道淨水場



大濱公園

清水山公園

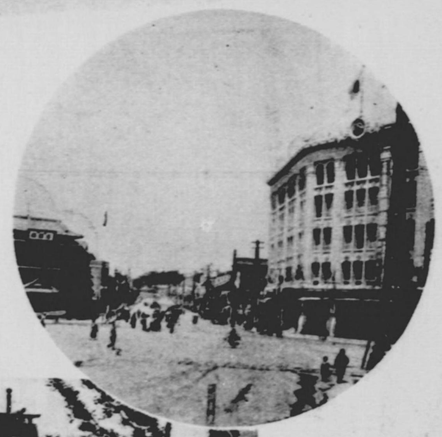
晩機山公園



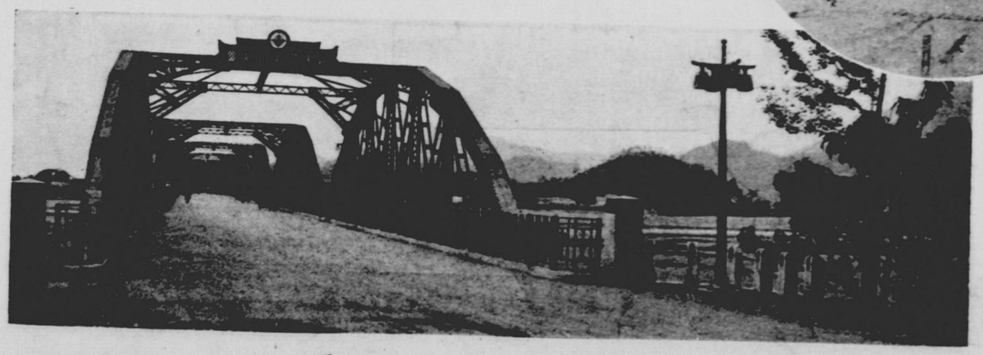
靜岡安西尋常小學校

德川慶喜公屋敷跡【浮月樓】

市街（其ノ二）七間町通〃

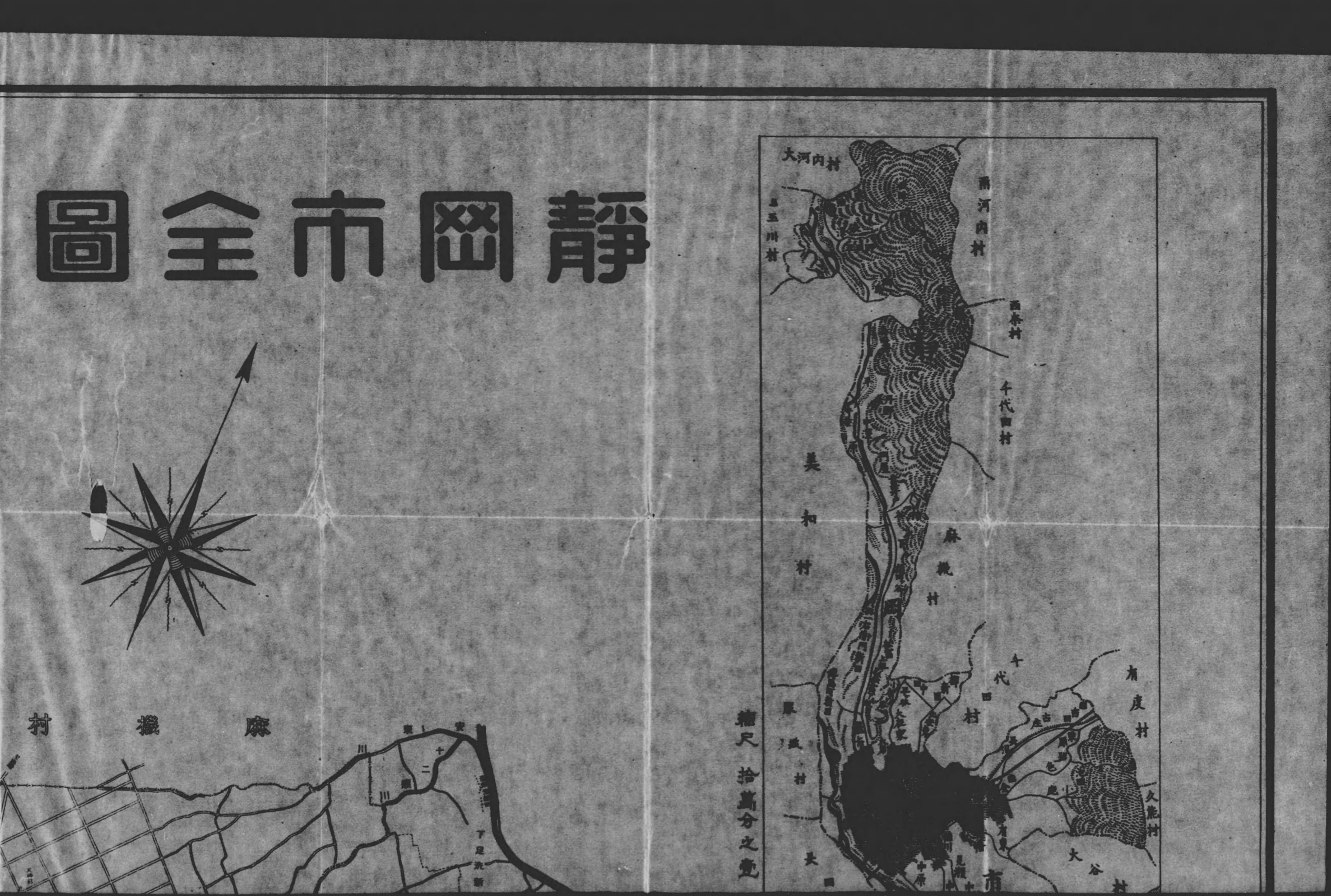


市街（其ノ一）御幸通〃

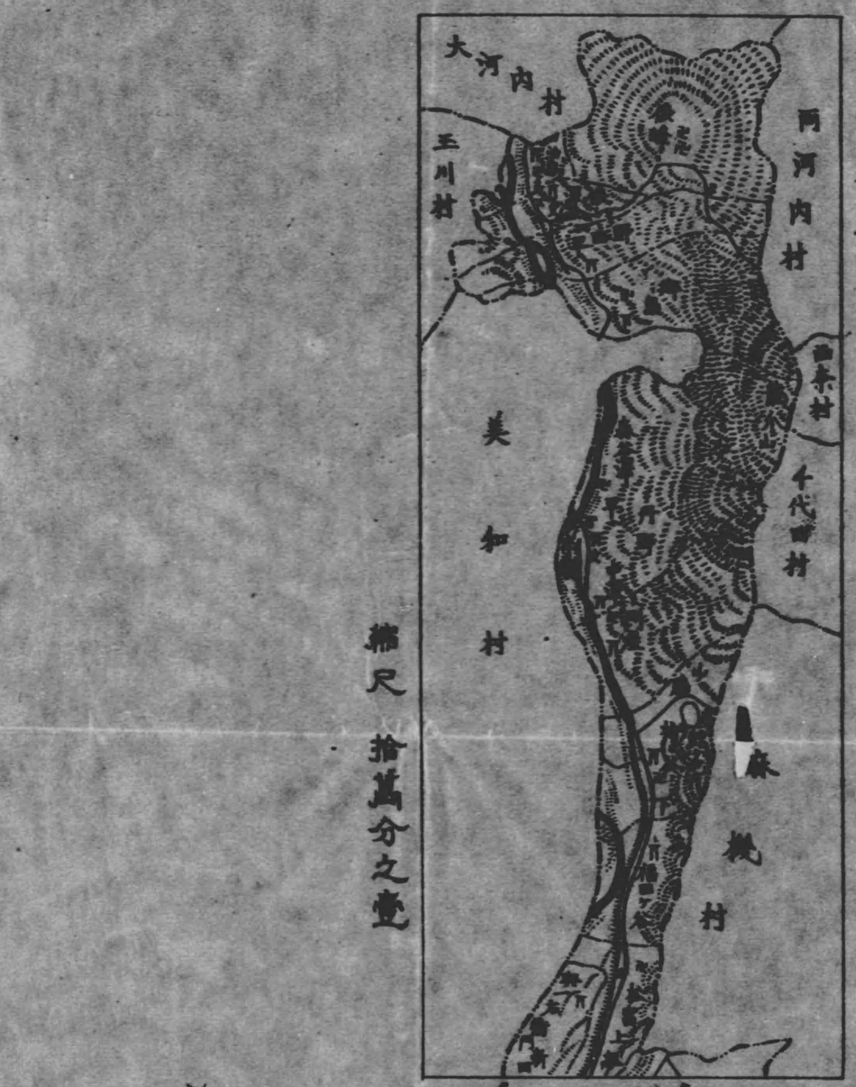


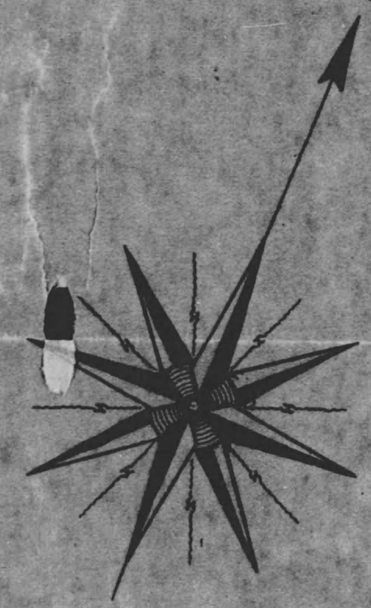
安倍川橋

靜岡市全圖

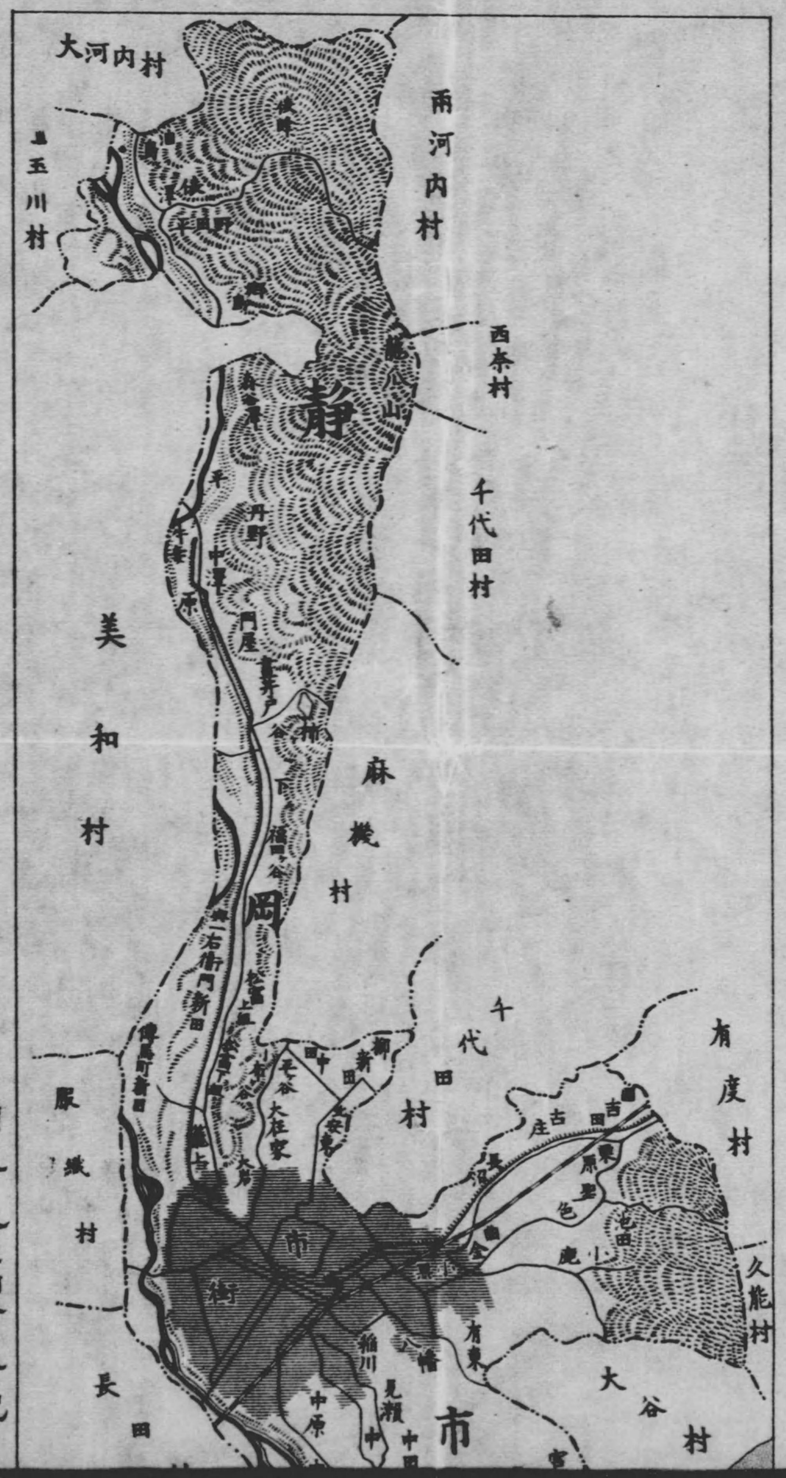


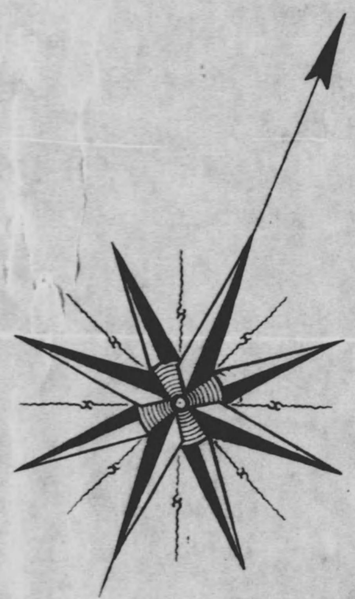
靜岡市全圖

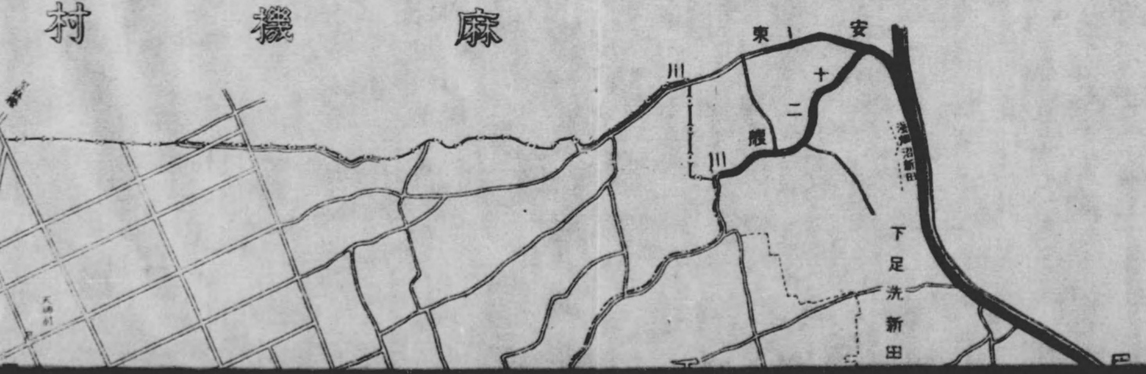




靜岡市全圖



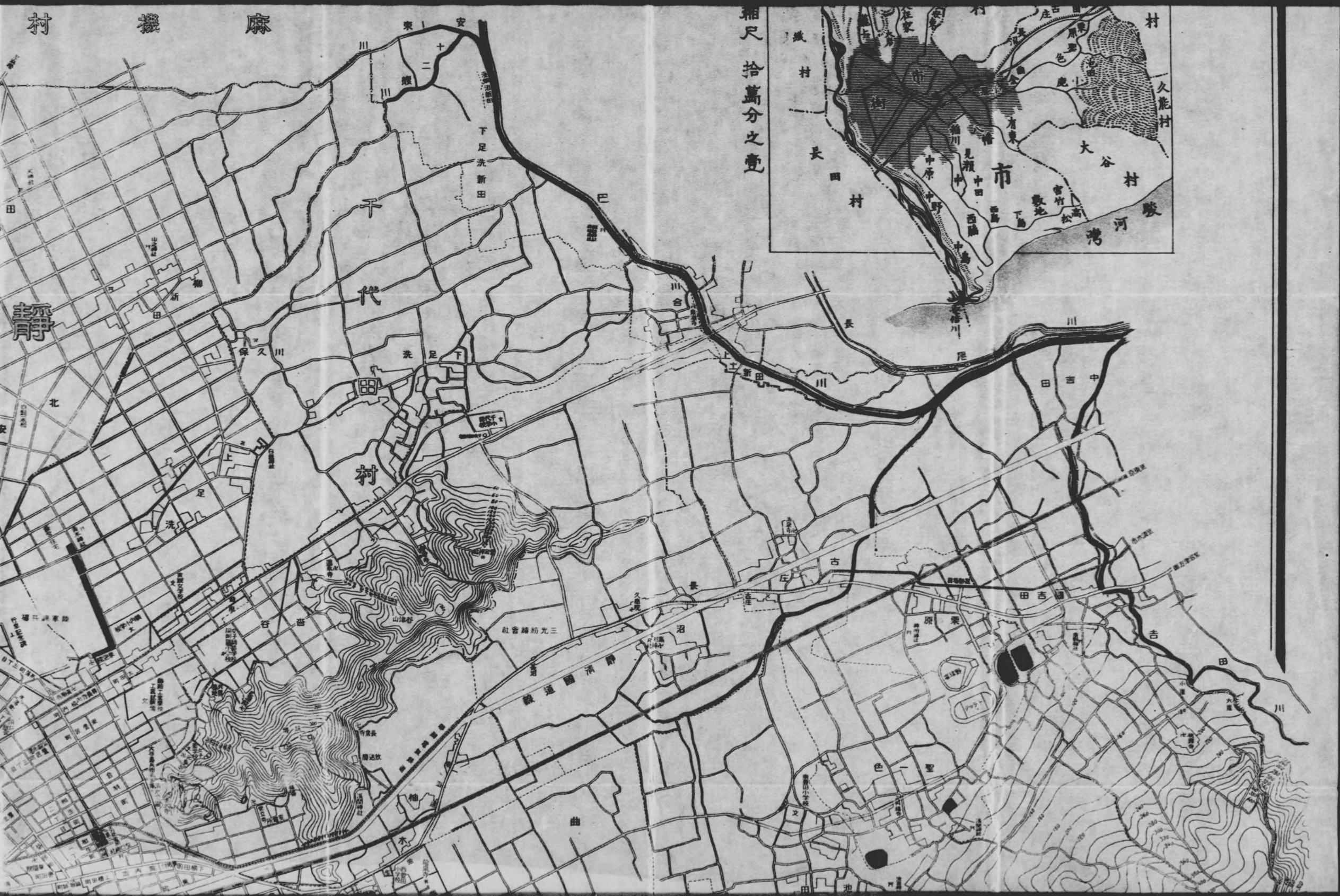




縮尺 拾萬分之壹

靜岡市全圖

縮尺 拾萬分之壹
大河内村
玉川村
西河内村
美和村
麻機村
千代田村
麻機村
安東十二川
下足洗新
平ケ谷
松富下組
傳馬町新田


麻機村
縮尺 拾萬分之壹
下足洗新田
巴
川合
長尾川
上土新田
下足洗
保久川
代
村
山津谷
三光紡績會社
長沼
古庄
吉田
栗原
聖一色
曲
池田
中吉田
吉田川
久能村
大谷村
駿河湾
長田村
市
静

麻機村

機

賤

静

千代村

安東

北安東

足洗

足洗下

足洗上

下足洗新田

巴

東十二

富松

下

平ケ谷

大在家

中田

新田

保久川

谷

曲

柚本

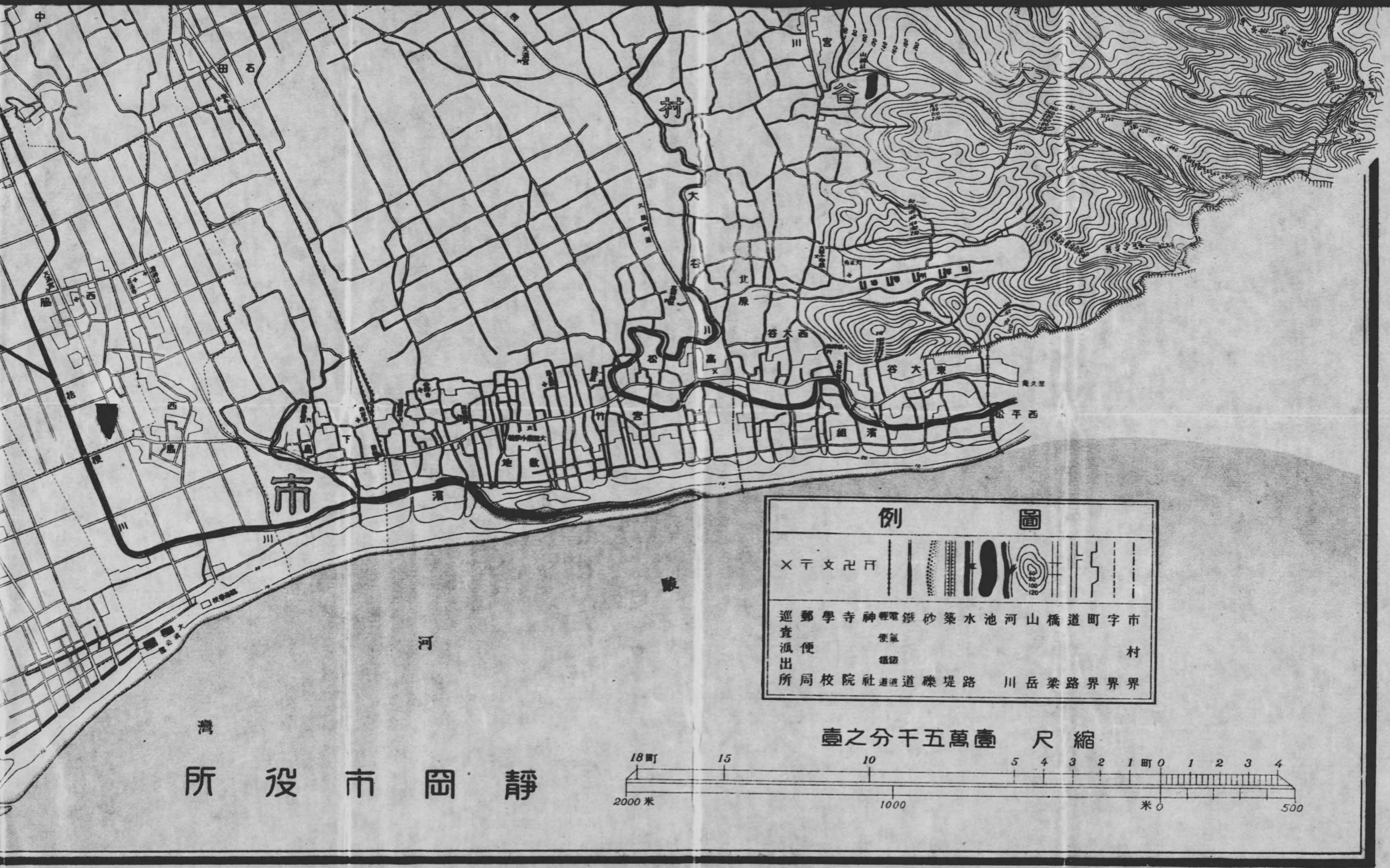
山津谷

三光紡織社宮

静清電鉄線

安

例
北原谷大西
谷大東
谷平石
東
北
西
南
東
北
西
南
東
北
西
南


市役所
静岡市
例圖
市
村
字
町
道
橋
山
河
池
水
築
砂
鐵
電氣
電話
神
寺
學
郵便
局
校
院
社
道路
道路
堤
礫
路
川
岳
梁
路
界
界
界
巡査派出所
縮尺 壹萬五千分之壹
18町
15
10
5
4
3
2
1
0
1
2
3
4
2000米
1000
0米
500

静岡市役所
18町
2000米
市
河
湾
駿
村
静岡市飛地
中田
中野
中島
西脇
石田
大谷
宮川
竹下
地蔵
大

361
720

面積　七十三・三四方粁（四・七六四方里）

戸數　二萬九千二百七十六戸

人口　十五萬二千百十二人

總生産額　貳千九百四拾四萬圓

第一位　工産
第二位　農産
第三位　畜産
第四位　水産

財政

一般會計　貳百貳拾八萬圓
特別會計　參百六拾參萬圓
總計　五百九拾壹萬圓

名物と土産品

銘茶、漆器、蒲鉾、山葵漬、吐月峯竹細工、竹器、木製玩具、塗下駄、梨、密柑、椎茸、興津鯛、魚饌、安倍川餅、名物羊羹、靜岡薔薇、茶蕎麥

表紙上圖ハ常市名産物産ノ一部ヲ寫眞化シタルモノナリ